

## あとがき

本誌の巻頭言でこのところ立て続けに、核データ専門誌のことが論ぜられました。広島大の吉沢康和氏(№.8号), 東北大の相山一典氏(№.10号), 名古屋大の加藤敏郎氏(№.12号)によるものがそれです。シグマ研究委員会の運営委員会では、現在それを受けて専門誌の必要性や実現の方策等について議論を重ねております。この機会に本号でも、相山氏に「再び核データ専門誌の必要性について」と題する原稿をお寄せいただきました。これらに対する御意見や御感想を多くの方々からお聞かせいただきたいと思っております。シグマ委の運営委員会での当初の議論は、一口に言えば、総論賛成・各論反対と言った雰囲気だったように思えます。研究発表や情報交換の場が必要なことは何人も異論はないものの、いざ実施に移す話になると費用や人手等々の問題がからみ、そのような障害を乗り越えてまでも実施することになると、「本当に必要なのか、本当に有効なのか…」と言った議論が再燃して、消極的ないしは反対に近い議論になってくるようでした。また、専門誌についてえがく各人のイメージが各様で、そのことも議論の収斂を妨げているようでした。運営委員会では議論を重ねた結果ともかく「核データニュース」誌に自由に投稿できる何らかの場を設けようと言うことで意見がほどまとまりました。次号には、はっきりした方針をお知らせできるものと思います。

(浅見哲夫 記)